



第1回「日本ダウン症会議」での分科会発表者④

変形性股関節症の手術をのりこえて

にいの
新野 真司 (25歳・東京都)

僕は、2015年に左の足をなおす大きな手術を受けました(左股関節臼蓋回転骨切り術)。僕は小学生の頃から月に2回「なっぴー」(注:障害のある人たちのバスケットボールチーム。現在は活動休止)に行き、バスケットを楽しんでいました。でも、だんだん足が痛くなって、走ることができなくなりました。

そして3年前の9月に手術を受けました。手術のあと1週間、僕はベッドに寝たきりでした。トイレにも行けないので、くだをつけていました。それがすごく痛くて、早く取りたいと思いました。足にベルトを巻かれて「絶対に動かしてはダメ!」と先生やお母さんが言うし、体も動かせなかったので、「もういやだなあ」と思いました。

やっとベッドから起きて、車いすでリハビリ室に行くとき、はじめは身体が痛かったので、動くのはいやでした。リハビリの先生に「車いすを動かすのがうまいね」とほめられ、うれしかったので、それからは頑張って車いすに乗ってリハビリに行きました。

2カ月入院して、階段を上ったり下りたりできるようになったので、家に帰ることが決まりました。退院するとき、仲良しになったおばあさん達がお祝いをしてくれました。僕は「ありがとうございました。お世話になりました」と書いた手紙を渡しました。

家に帰り、週3回リハビリの通院が始まりました。ストレッチやバランス板に乗って

ボールをけったり、自転車をこいだり、いろいろな運動をしました。そして、「歩くことが一番のリハビリですよ!」と言われ、杖を使いながら頑張って歩き、1年間楽しくリハビリができました。

今は足が痛くないので、大好きな福祉作業所で立ち班の仕事をしています。封入やバスロープたたみ、公園清掃など、仕事がいっぱいあって毎日忙しいです。



家では、「ナルト」のマンガを1巻から72巻積みあげて何回も読んだり、漢字を書き写したり、DVDの氷川きよしの歌を一人カラオケをして楽しんでいます。コンサートにも行きたいので、お金もためています。お仕事を頑張るので、僕にお仕事をたくさんください。

お父さん、お母さん、小さいころから一緒にいる愛ちゃんや俊ちゃん達とみ～んな一緒に、ここでずーっと暮らしていきたいです。



<プロフィール>

1992年東京都生まれ。区立小学校の通常学級、区立中学校の特別支援学級、都立の特別支援学校へ通学。現在は区立大田福祉作業所(就労継続支援B型)に通い8年目。好きな歌手は、氷川きよし。趣味は、カードゲーム、漢字の書き取り、球技、乗馬。

※これまで会報に掲載してきたこのコーナーの記事をJDSのホームページですべてご覧いただけます。

トップページ上段「ダウン症のあるお子さんを授かったご家族へ」⇒「主張するセルフ・アドボケートたち」